

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、日本オリンピックミュージアムです。

昭和 100 年記念企画展「東京 1964 大会から東京 2020 大会へ」

URL：[昭和 100 年記念企画展「東京 1964 大会から東京 2020 大会へ」 | 日本オリンピックミュージアム](#)

日本オリンピックミュージアム（東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号）では、主に東京で開催された 2 つのオリンピック開催に焦点をあて、昭和と令和を象徴する国際スポーツ大会が残したレガシーについて考える展覧会を、同ミュージアムと秩父宮記念スポーツ博物館との共同企画で開催しています。



企画展では、それぞれの大会の説明や関連する貴重な品の展示、両大会を比較したパネル解説により、2 つの東京オリンピック競技大会について詳しく理解することができます。

○「東京 1964 大会」

開催期間：昭和 39 年（1964 年）10 月 10 日～24 日

参加国・地域数：93

選手数：5,152 名（うち日本選手数は 355 名）

競技数：20 競技 163 種目

獲得メダル数：金メダル 16 個、銀メダル 5 個、銅メダル 8 個

◆日本オリンピックミュージアム

平和の大切さと大戦からの復興を訴えるアジア初のオリンピックであることや、日本代表選手団がそれまでの獲得メダル数を大幅に更新する活躍を見せ、この大会から正式競技となったバレーボールでは、「東洋の魔女」と呼ばれた日本女子チームがソ連チームに勝利して金メダルを獲得したこと等が、写真と共に紹介されています。聖火リレーでは、昭和20年8月6日に広島で生まれた方が最終ランナーを務めたことが写真と共に紹介され、大会で用いられた聖火トーチも展示されています。また、各国代表団が母国の木の種を持ち寄った緑の国際交流が行われ、日本国内でその種から樹木が大きく育ち、オリンピックミュージアムの天井や家具の材料として用いられていることも紹介されています。



○「東京 2020 大会」

開催期間：令和3年（2021年）7月23日～8月8日

参加国・地域数：206

選手数：11,420名（うち日本選手数583名）

競技数：33競技339種目

獲得メダル数：金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個

記憶に新しいこの大会では、新型コロナウイルスの影響で開催が一年延期され、ほとんどの競技会場では原則無観客となるなど、前例のない大会となりましたが、日本人選手は多くの競技で躍動し、夏季オリンピックで最多メダルを獲得しました。ジェンダー平等を推進するために、男女混合種目が多くの競技で新設・導入され、新たに採用された卓球混合ダブルスで金メダルを獲得した水谷選手と伊藤選手が写真とともに紹介されていました。

◆日本オリンピックミュージアム

パネル解説では、いくつかのテーマについて、2つの大会が対比して説明されています。

○「技術」について

東京 1964 大会では、オリンピック初の衛星中継が行われ、日本国内ではカラーテレビが普及。東京 2020 大会では、新型コロナウイルス感染症対策をまとめた「プレイブック」に基づき、競技運営の一部にロボットが活用され、ドローンを活用したテレビ中継や開会式でのパフォーマンスが行われたことなどが、実物の展示とともに紹介されています。



競技運営補助ロボット（2020）



携帯用吸いから入れと携帯用ゴミ袋（1964）

不要になった携帯電話の一部を再利用して製作された入賞メダル（2020）

○「環境」について

東京 1964 大会では、大会開催を契機に「首都美化運動」が推進され、人々の環境への意識が向上するきっかけになったことが、ごみを片付ける当時の写真とともに紹介されていました。調べてみたところ、オリンピック開催前にはエチケットという言葉が流行語のように広まり、「あなたのマナーがオリンピックを成功させる」をスローガンに、会場では「エチケット七つ道具」としてチリ紙や手ぬぐい、ゴミ袋、灰皿等が配布されたとのこと。昨今、国際的なスポーツの大会で日本人観客の美化活動が世界で話題になっていますが、その萌芽がここにあったことがわかります。

東京 2020 大会では、持続可能な大会運営を目指し、競技会場や関連施設などが大会終了後に再利用できるように計画され、メダルや表彰台などの備品の多くが不要になったものを再利用して製作されたことが紹介されています。不要になった携帯電話の一部からメダルを作る「都市鉱山プロジェクト」が写真とともに紹介されていました。調べてみたところ、アスリートに授与される全てのメダル（金・銀・銅あわせて約 5,000 個）は、リサイクル金属で製作されたそうです。

URL：[都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト／オリンピック・パラリンピック準備局|TMC ブリーフィング|政策企画局](https://www.tokyo2020.org/ja/about-the-games/sustainability/urban-mining-project/)

東京 2020 大会の WEB ページには、公式報告書が掲載されています。

URL:[オフィシャルレポート | 報告書ポータル | 東京 2020 大会開催準備 | 東京都オリンピック・パラリンピック競技大会ホームページ](#)

報告書の 1 つである『東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会公式報告書 第 1 部』によると、東京 2020 大会で得られた成果や学びは 5 つに集約され、組織委員会が後世に残す「東京 2020 モデル」として、内外に積極的に継承していきたい、と記載されています。その 5 つは、①安全・安心な大会運営のノウハウ、②若い世代に向けた大会の在り方、③多様性、持続可能性、参画及びオリンピック競技大会とパラリンピック競技大会の協働、④簡素化、効率化、透明性、⑤未来への継承と社会との対話 であり、⑤については、社会状況に応じて準備や運営を検証し、また、多くの意見があったからこそ、より安全・安心で、より透明で、より多様で、より簡素なものになった。こうした対話と検証により、大会やスポーツの価値がより強靱になり、未来へ継承されていくべきものになる。これが、東京 2020 大会の成果であり、今後への学びである、と結ばれています（一部要約）。

価値の再定義やアプローチの変革、さまざまな検討と努力の積み上げの上で、白熱する競技と熱狂的な応援が実現し、それらがモデルとして構築され、次代に引き継がれていく、ということや、オリンピックはスポーツの分野だけでなく、社会環境や価値観の変容に繋がる社会全体の挑戦の場であることを、昭和 100 年を機に、改めて顧み学ぶことができました。

オリンピックミュージアムの 2 階では、オリンピックの躍動や開会式の感動を映像と音響で体感できる施設など、オリンピックを感じ、考えることができる常設展が開催されています。また、定期的にオリンピックによるミュージアムガイドツアーやトークショーなども開催されています。

URL：[2F EXHIBITION AREA | 日本オリンピックミュージアム](#)
[企画展 | 日本オリンピックミュージアム](#)



会期：令和 8 年 6 月 9 日（火）～8 月 30 日（日）
主催：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
住所：東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号